



東深沢中だより

<https://school.setagaya.ed.jp/thiwa>

みしまの森学舎
世田谷区立東深沢中学校
校長 本田 仁
令和7年10月30日
第6号

多角的思考力

校長 本田 仁

これまでも思考力については何度か学校だより等で触れてきました。今号は多角的思考力というタイトルではありますが、基本的には論理的思考力（論理パズル）のお話です。

現在、入社試験に論理パズルを出題する企業がけっこうあります。例えば Google や Apple、Microsoft などの入社試験でも採用されています。

問題 あなたと隣人が同じ日に同じ場所で不要品をセールします。あなたには、100 ドルで売れると確信している商品があります。ところが、なんと隣人もまったく同じものを売ろうとしていました。しかも、隣人に聞くと 40 ドルで売るつもりだと言うことでした。この隣人と特に親しくするつもりがないとして、あなたはどうすればよいでしょう。

この問題は Google の入社試験で出題された有名な問題です。読者の皆様ならどうしますか。この問題は答えが決まっているのでわかりやすいですね。100 ドルで売れると確信しているのだから、隣人から 40 ドルで買って、100 ドルで売るが答えです。安く仕入れて高く売るとというのがビジネスの基本ですね。

問題 マンホールの蓋（ふた）が四角ではなく丸いのはなぜでしょうか。

この問題は Microsoft の入社試験で出題された問題です。これはわかりますよね。ちょっと近くの方々と話し合ってみてください。次の問題はちょっと難問です。

問題 テーブルに裏表のあるコインが 100 枚並べられています。10 枚が表、90 枚は裏が上になっています。あなたは、コインの裏表を感じたり、見たり、あるいはどんな方法を使っても知ることはできません。表が上のなっているコインの数が同じになるように、コインを 2 つの山（グループ）の分けてください。

（※裏表の判断はできませんが、コインに触れることはできます。）

この問題は Apple の入社試験で出題された問題です。私はこの問題の答えを導き出すことはできませんでした。正解を見て、この発想が入社試験中の思いつく人はすごいなと思いました。100 枚なくても、実際にコインやトランプなどを使ってやってみるとよいですね。答えは簡単なのですが、解説が長くなってしまうので、「Apple 入社試験 100 枚のコイン」で検索してみてください。

企業が入社試験で論理パズルを出題する理由は、単に「正解を導く力」を見るためではありません。むしろ、答えに至るまでの思考の過程や、限られた情報から筋道を立てて考える多角的思考力（論理的思考力）を測ることが目的です。

現代のビジネス環境は、正解が一つではない複雑な課題に満ちています。たとえば新しい商品を開発するときも、顧客のニーズ、コスト、技術的制約など、多くの要素を同時に考慮しなければなりません。こうした状況では、一方向から物事をとらえるだけでは限界があり、さまざまな角度から考え、最適解を探る柔軟な発想が求められます。論理パズルは、その訓練としてとても効果的なのです。

さらに、論理パズルの出題には、もう一つの狙いがあります。それは、困難な問題に直面したときの姿勢を観察することです。答えがすぐに出ない状況で焦らずに考え抜く忍耐力、仮説を立てて試行錯誤する探究心、途中で発想を転換する柔軟性など、こうした資質は、どんな仕事にも共通して重要です。論理パズルは短時間でその人の思考スタイルを浮き彫りにする優れたツールなのです。

したがって、企業が論理パズルを出題するのは、単なる「頭の良さ」を測るためではなく、未知の課題にどう立ち向かうかを見るためです。多角的に物事を捉え、筋道を立て、柔軟に発想を転換できる人材こそ、変化の激しい時代において企業が求める人材像と言えます。

中学校までの教科書に出てくる一般教養も大切にしながら、多角的思考力も鍛えていきましょう。そして、大人の皆様も私と一緒に柔軟な思考を大切にしていきましょうね。